

令和3年度 英語科

学年	学習状況の現状分析と課題	指導方法の課題・改善策・補充・発展指導
1学年	<p>①コミュニケーションへの関心が高く、聞く活動や話す活動は意欲的に取り組んでいる。スキット発表では、多くの生徒が楽しみながら台本作成や練習に主体的に取り組む、発表をすることができた。</p> <p>②英語を聞く力は概ねよい。</p> <p>③英語を話す力は、自己紹介や簡単なやりとりはできる。</p> <p>④英文を読んで理解する力も概ねよい。徐々に読む英文の量が増えてくるので、ポイントを押さえて読むことが今後の課題となってくる。</p> <p>⑤英語を書く力に関しては、生徒によって大きな差がある。アルファベットを順に正しく書くことはできるものの、単語の中ではbとdを間違えるなどする生徒や、音と文字の関連性が習得できていない生徒もいる。単語や英文を読んだり言えたりしても、正しくつづりを書けない生徒がいることが課題である。</p>	<p>①4技能を総合的に育成することを目標としている。感染症予防をしながらのペアやグループでの活動を入れ、英語でのコミュニケーションへ興味をもって主体的に学び合いができるような授業を目指す。ユニバーサルデザインを意識し、「本時のねらい」「授業のながれ」を黒板に提示する。学習への関心を高めるためパワーポイントやデジタル教科書を活用する。</p> <p>②英語を聞く場面(教員の英語での指示、教科書の本文やリスニング問題等)を適宜取り入れ、伸ばしていく。</p> <p>③教科書の音読・暗唱練習等で、英語で話す力の基礎を養い、スピーキングテスト・スピーチ等の実施により、話す力を伸ばしていく。</p> <p>④内容を読み取る際に、すべてを日本語にするのではなく、内容のポイントを絞って読んでいく練習を入れていく。また、語彙力を伸ばすために、単語テストを単元ごとに行う。</p> <p>⑤書く力は、授業でフォニックスの復習を行い、音と文字のつながりを再確認させる。また、適宜課題を出したり確認のためのテストを実施することで、書く練習への取り組みの機会を増やす。まとまりのある内容のある英文が書けるように、授業内で英作文を書く機会をもうける。</p>
2学年	<p>①全体的にペアでの活動等には協力して取り組んでいるが、基本的な語彙や英文が身につけていない生徒もおり、昨年に比べるとコミュニケーションへの関心・意欲にやや差が出てきている。また、さらに力を伸ばそうと主体的に学習に取り組むところまでは到達していない生徒が多い。しかしながらALTとのインタビューでは、多くの生徒が積極的に話すことができ、次回に生かそうという姿勢がみられる。</p> <p>②英語を聞く力は概ねよい。</p> <p>③英語を話す力は、練習した内容での簡単なやりとりはできるが、その場でのやりとりには黙ってしまう生徒もいる。スピーチ等事前に準備して行うものは、生徒により取り組みに差がある。</p> <p>④英文を読んで理解する力は、簡単な内容であれば理解できるが、初見の英文には苦勞している生徒が多い。基本的な語彙力を確実に身につける必要がある。</p> <p>⑤英語を書く力に関しては、生徒によって大きな差がある。知識不足で基本的な単語が書けない生徒、正しい語順の英文を書けない生徒がいることが課題である。</p>	<p>①4技能を総合的に育成することを目標としている。感染症予防をしながらもペアやグループでの活動を入れ、「間違えを恐れずやりとりを行う」ことを意識させて、主体的に学び合いができるような授業を目指す。また、ユニバーサルデザインを意識し、「本時のねらい」「授業のながれ」を黒板に提示する。</p> <p>②英語を聞く場面(教員の英語での指示、教科書の本文やリスニング問題、生徒同士のやりとり、英語の歌や映画等)を適宜取り入れ、今後も伸ばしていく。</p> <p>③単語の発音や教科書の音読練習で、英語で話す力の基礎を養い、チャット・スピーキングテスト・スピーチ等の実施により、更に話す力を伸ばしていく。また、徐々に即興で話す練習も取り入れていき、発表・やりとり両方の力を育てていく。</p> <p>④まずは基礎的な語彙力向上を目指し、繰り返し基本単語の練習を行い、単語テストやスプリングコンテストで定着を図る。また、内容を読み取る際にすべてを日本語にするのではなく、内容のポイントを絞って読んでいく練習を入れていく。</p> <p>⑤書く力は個人差が大きいが、適宜課題を出したり確認のためのテストを実施したりして、書く練習への取り組みを増やす。また、生徒が進んで書きたいテーマを検討して、英作文やスピーチ原稿作成を行う。</p>
3学年	<p>①主体的に学習に取り組む態度がある。帯活動として行う1分間トークの振り返りで、良かったポイントや改善すべきポイントを細かく分析することができている。間違いを恐れずに話せる生徒がほとんどであるが、流暢さを重視しすぎている点がある。</p> <p>②実力テストの結果から、英作文は全国平均を7点上回っている為、繋がりを意識して書くことができる生徒が多い。しかし、習う文法が複雑になるにつれ、be動詞と一般動詞を混在して書いてしまう生徒もいる。</p> <p>③長文読解では、読むのに時間がかかってしまいヒントがないと問題を時間内で解くことが難しい。</p> <p>④少人数クラスでは、各クラスに能力の差や教員の差がないようにグループ編成を考え、共通のワークシートを利用している。生徒一人の発話の機会は増えている。</p>	<p>①流暢さを重視した次は、正しい文法、イントネーションも指導していく。単語だけの会話ではなく、文で話せるように、主語と動詞を意識させて話す指導をする。</p> <p>②序論、本論、結論の形を引き続き指導し、繋がりを意識させる。個人の力に合わせ、ALTを活用し、フィードバックする機会を設ける。新出文法事項を習い終わった後、1,2年生の復習をさせ、入試対策を行う。</p> <p>③2学期以降、「長文よみとりドリル」を活用し、帯活動として制限時間内で英文を読み解く練習をし、読み取るコツの指導をする。</p> <p>④ユニバーサルデザインを意識し、「本時のねらい」「授業のながれ」を黒板に提示する。定期テストの結果を考慮し、クラス編成を考える。</p>